

令和 6 年度 第 2 回 春光台・鷹の巣まちづくり推進協議会 会議録

会議概要	
日時	令和 6 年 12 月 17 日(火曜日) 午後 7 時 00 分から午後 8 時 35 分まで
場所	旭川市春光台公民館 講座室
出席者	委員（15 名, 50 音順） 伊林委員, 上森（茂）委員, 上森（仲）委員, 大久保委員, 小原委員 菊地委員, 佐藤委員, 沼倉委員, 宮上委員, 福屋委員, 水野委員 （欠席者：早坂委員, 山本委員, 横山委員, 吉井委員） オブザーバー 日向氏（春光台未来プロジェクト実行委員会） 事務局 春光台公民館：若林館長、藤村専門指導員、高橋事務 旭川市市民生活部地域活動推進課：岩崎次長、木下主査 旭川市地域振興部交通空港課：岡田課長補佐、大淵主査
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者の数	0 名
会議資料	次第
	資料 1：地域まちづくり推進協議会の在り方について
	資料 2：春光台・鷹の巣まちづくり推進プログラム
	資料 3：子ども支援事業実施報告書等一式
	資料 4：春光台未来プロジェクト事業実施報告書等一式
	資料 5：畑づくりプロジェクト事業実施報告書等一式
	資料 6：春光台地域食堂事業実施報告書等一式
	参考資料：地域コミュニティ交通に関する資料一式

議 事 の 内 容

1 市民生活部より

(1)「地域まちづくり推進協議会の在り方」について(資料1)

【旭川市市民生活部地域活動推進課】

- まちづくり推進協議会は、平成22年に支所地域、平成24年に本庁地域に設置されているが、平成30年より市設置の懇談会となり、実行委員会を立ち上げる形で事業を進めている。
- まちづくり推進協議会が懇談会となったことで、事業実施時に実行委員会を立ち上げることが必要となり、事業を進めるにあたっては下記のような課題が見られる。
 - ※事業実施にあたっては、実行委員会を立ち上げることが必要となり、組織が複雑化する。
 - ※構成団体を地域で選ぶことが難しい。
 - ※地域活動の担い手不足が進行し、負担感が大きくなっている。
- 令和4年度に委員向けアンケートを実施し、下記のような回答が示されている。
 - ※回答者の7割以上が60歳代以上となっている。
 - ※地域活動を実施する上での課題・問題点としては、「担い手不足」が84.4%、「情報・ノウハウ不足」が37.7%で、担い手不足の問題が大きな割合を示している。
 - ※まち協に関わる取組の問題点は何かとの質問では、「住民の認知度向上」、「活動の活性化」、「運営の効率化」などの問題点が挙げられていた。
- 令和5年度における委員との意見交換会では、下記のような意見が出されていた。
 - ※組織の在り方については、①根本的な部分は、現在のままでよいのではないかと。
 - ②現在まち協に加わっていない組織の力を借りることができないかとの意見が出ていた。
 - ※担い手不足の軽減については、①現役世代は多忙であり、地域活動のための組織に入ってくることはないのではないかと。
 - ②どうすれば若い世代を加えることができるだろうか？との意見が出ていた。
 - ※まち協の運営については、①会議の場で、発言しにくい時がある。
 - ②固定的な内容でなく、様々なことを自由に話し合えるようにしたい。
 - ③地域運営組織となった際の事務負担が心配だ。
 - ④市の懇談会で弊害が出ているのなら、市が現行のルールを変更すればよいのではないかととの意見が出ていた。
 - ※区域割については、別地区のことについては関係がなく思えて意見を出しにくいので、もう少し小さな区域割の方が良いとの意見が出ていた。
 - ※情報発信については、まち協のPR活動に力を入れてほしいとの意見が出ていた。
 - ※その他の意見として、①現時点で、説明にあった地域ビジネスなどを想定した地域運営組織設立は大きな負担になる。
 - ②地域活動に参加した人には、経済的メリットがあるようにできないか。
 - ③新たな組織についての意見交換をするなら、しっかり時間をとるべき等の意見が出されていた。
 - ※上記の内容から、①現まち協について見直すべきといった声もあるが、別組織への移行を求めるほどのものではない。
 - ②新たな担い手を確保したい。
 - ③様々なことを検討できる仕組みが必要。
 - ④まち協の知名度を向上させるべきとのまとめとした。
 - ※今後の進め方としては、①別組織への拙速な転換は難しく、一方で現状の仕組みにも課題があると認識している。
 - ②今後については、明らかになった課題を解決すべく、地域主体の組織づくりを視野に入れながら、担い手不足や負担感という同じ課題を持つ町内会や市民委員会を含め、地域コミュニティの全体像を整理する中で引き続き検討を進めていきたい。

【委 員：質問】

- まち協の運営についての意見の部分で、市の懇談会で弊害が出ているなら、市が現行のルールを変更すれば良いのではとの意見が出ているが、市が現行のルールを変更することは可能なのか。

【旭川市市民生活部地域活動推進課】

- 現在のまちづくり推進協議会の制度の中では、変更することは不可能である。

【委 員：質問】

- 今後のまとめ方に示された内容が、令和8年度からの活動の考え方になるのか？

【旭川市市民生活部地域活動推進課】

- すぐに変えられる地域とそうでない地域があると思うが、そのことについては、それぞれの地域の考え方によると思うので、それぞれの地域の実情に応じて実施してもらえばよいと考える。
- 現在と将来における地域まちづくりの進め方について、全体の73.4%の地域が市の関与を望んでいるとの結果があるので、旭川市としての関わり方については、今後、各地域との話し合いを進めていく必要があると考えている。また、地域の実

- 情に合わせて、市としても柔軟に対応していかなければならないとも考えている。
- (2)「春光台・鷹の巣まちづくり推進プログラム」について(資料2)

【旭川市市民生活部地域活動推進課】

- 資料2 令和6年度 春光台・鷹の巣まちづくり推進プログラムの内容で訂正や追加する部分があればご意見をいただきたい。また、本日の会議で気が付かなかった部分で訂正や追加がある場合については、後日、連絡をいただきたい。

【委員】

- この事業の一つとして「春光台未来プロジェクト事業」に取り組んでいるが、その中でスローガンとして掲げられている「10年後「笑顔にあふれた」「優しさに満ち溢れた」「みんなが交流できる」春光台にするために・・・」を地域目標に掲げてはどうか。

【旭川市市民生活部地域活動推進課】

- 内容については、3月の会議で正式に決定をするので、それまでに委員それぞれが検討をしておいていただきたい。

【委員】

- 4の地域の現状と課題解決のための取組・市への要望等の部分における「地域食堂(子ども食堂)」に関わる箇所(4ヶ所)の実施状況欄に「○(R6～)」と記載を入れていただきたい。

【旭川市市民生活部地域活動推進課】

- P5下段の「道ありき」春光台における足跡「坂」の名称実行委員会の項目については、事業が終了しているのでカットする。
- P6中段の課題解決の取組・魅力づくりの項目における「スノーコミュニケーション活動の推進(全域)」については、活動状況について確認をする。
- P6下段の郷土愛や誇りの醸成・コミュニティ活性化(世代間交流)の郷土愛育成のための課題解決の取組・魅力づくりの部分に「夢あかり(アイスキャンドルの取組)」を追加する。
- 市への要望・地域からの提案に対する旭川市からの回答が出されている事項については、特別なことがない限り連続して要望を上げることはできない。

2 報告事項(令和6年度における4事業の活動状況について)

- (1)子ども支援実行委員会(資料3)

【会長】

- 春・夏・秋・冬の年4回の街頭指導を実施し、具体的な反省については1月に行われる実行委員会の中で行う予定である。
- 街頭指導に関する啓蒙活動ということで、春光台中学校パソコン部の皆さんに協力をいただき中でポスターを作成し、地域の商業施設や公民館、地区センターに掲示をした。また、公民館のホームページと旭川市の「まなびネットあさひかわ」に活動状況を掲載していただいた。
- 実行委員会を立ち上げた当初より協力者が5名増え、街頭指導を行う場所についても2ヶ所増の10ヶ所で実施することができた。
- 年4回の街頭指導を実施したが、今後は実施回数を増やしていくことについても検討をしていきたいと考えている。
- 街頭指導については、児童生徒の登校時に行っているが、下校時における指導も必要ではないかと考えている。
- 他の地区で行われている児童生徒の見守り活動なども参考にしながら、今後の活動について検討を加えていきたい。

- (2)春光台未来プロジェクト実行委員会(資料4)

【委員】

- 2つの事業を連動させながら、6月22日と11月16日に事業を実施した。
- 6月22日には、エコチャレンジ「クーリング」というゴミ拾いとビンゴゲームを合体したゲーム感覚の参加型イベントを鷹の巣福祉村地区で実施し、75名の方が参加をした。
- 11月16日には、10年後「笑顔にあふれた」「優しさに満ちあふれた」「みんなが交流できる」春光台にするために・・・をスローガンに、高台小学校で「春光台未来プロジェクト」を実施し、89名の方が参加をした。
- 上記の2つの事業についてはチラシを作成し、ライナーへの折り込み配布、町内会への回覧、小中学校の児童生徒への配布を行い、地域に周知している。
- 清掃活動については、6グループを組織して区域内のゴミ拾いを実施し、今年度は4.7kgのゴミを収集した。
- 春光台未来プロジェクトでは、小中学校からの活動報告を行い、高台小学校からは北海道療育園とグループホーム「和が家」の協力をいただく中で、「福祉について」

- の発表がされた。また、春光台中学校からはSDGs(春中版)として、Sスマイル(笑顔)・Kカイント(優しさ)・Dドリーム(夢)メニメニSKDプロジェクトと題して、いじめ防止の取組についての発表がされた。
- 事業内容(2)③の令和6年度「クーリング」実績活動報告については、旭川市立大学栗田ゼミの学生から発表があり、事業内容(2)④の春光台の歴史を知る・・・クロストークでは、春光台地区の商工会の方々からお話をいただいた。
 - (2)⑤のグループトークでは、「未来を見据えて今できることは何か」と題して、次年度の活動内容について話し合いを行った。
 - 「クーリング」での成果としては、3回目の開催で場所を鷹の巣福祉村地区で行い、春光台全体にイベントを広げることができた。
 - 2つの事業については、「公民館ホームページ」、「まなびネットあさひかわ」や「まち協」だよりに掲載することにより、地域の人々の理解が広がり、共感者も増えたのではないかと考えている。
 - 今年度は、「クーリング」と「未来プロジェクト」における共通の参加者が増えており、2つの事業を連動させている成果が現れてきていると考えている。
 - 今年度の最大の成果としては、子どもたちが「福祉」に対して関心を持ち、身近に感じ、福祉は特別ではないということを子どもたちの発表から聞き取ることができたことが大きな成果であった。
 - 課題としては、多世代との交流の大切さを地域に広く啓蒙していくことの必要性を感じている。また、その中で今の子どもたちが何を考え、何を求めているかを大人が真剣に考えていかなければならないのではないかと思います。
 - 課題として子どもたちからは、ゴミが少なくなるとの指摘があり、ゴミを捨てにくい地域にしていかなければならない。さらに、その意識を春光台だけでなく、他の地域にも広げていかなければならないとの意見が出された。

(3) 畑づくりプロジェクト実行委員会(資料5)

【副会長】

- 子どもたちと保護者、農業経験者などが協力をして、春から秋までの畑づくりやフラワーロードの取組、春光台の歴史に触れる機会や魚釣りなどの活動を通して、郷土愛を育むことを目標にしている。
- 参加者は、それぞれの都合に合わせて活動に参加しながら、畑づくり全体としての活動を維持している。
- 畑には水道施設がないので、今年は畑に水を貯めるタンクを用意し、その中に肥料を溶かした水を準備しておくことで、いつでも水やりができるようにした。
- 収穫した野菜については、地域食堂にも食材として提供している。
- 魚釣り大会については大変盛況で、中には魚を家に持ち帰って飼育している子どももいる。
- 今年はヤーコンをたくさん収穫することができ、みんなで美味しくいただくとともに、地域食堂の食材としても利用した。
- 収穫した食材の調理法などについてもお互いに情報交換をすることができ、子どもたちの食育にも繋がったのではないかと考えている。

(4) 春光台地域食堂実行委員会(資料6)

【委員】

- 地域食堂は年4回の実施を予定しているが、現在までに3回が終了し、昼食とおやつを提供している。
- 春光台公民館を会場に全室を貸切って実施している。
- 第1回は5月26日に実施して計144名の参加があり、カレーライス、フルーツヨーグルト、かんぱんかりんとうを提供した。また、遊びについてはドッチボール、オセロなどのボードゲーム、シャボン玉、ブロック遊びなどを行ったが、それ以外にボランティアとして参加していただいた「がみ」さんから、ヘッドマッサージとセルフメンテナンスについてのアドバイスをいただいた。
- 運営スタッフだけでは人が足りないので、旭川市立大学子どもの未来を考える会「みら研」と旭川実業高等学校のボランティアの学生にお手伝いをいただいた。
- 第2回は8月18日に実施して計158名の参加があり、この時は旭川市立大学江口ゼミの皆さんによってラーメンが振舞われた。また、ラーメン以外にもおにぎり、漬物を提供した。
- 第1回に実施した「がみ」さんのヘッドマッサージが大変好評だったので、第2回では、「がみ」さんによるヘッドマッサージに加えて、「足もみ母さん」の足もみとアドバイスを実施した。また、サポートスタッフとして旭川市立大学江口ゼミ、みら研、明成高等学校の皆さんにお手伝いをいただいた。
- 第3回は10月20日に実施して計122名の参加があり、クレープ、おにぎり、スープを提供した。また、遊びでは旭川冒険遊びの会の皆さんによる「出張プレパーク」と とっしー さんによる「だれでも自宅でできる足もみ講座」を実施した。
- 第3回はサポートスタッフとして、旭川市立大学みら研、明成高等学校、旭川実業高等学校の皆さんにお手伝いをいただいた。

- 食材については、畑づくりで収穫した野菜と2つのフードバンクから提供していただいた食材も使わせていただいている。
- 成果としては、色々な団体の方が関わっていただくことで世代間の交流が生まれた。
- 参加者からの感想は、とても好意的であった。
- 小中学校にチラシを配布したことで新規の参加があった。また、SNSをきっかけに春光台以外からの参加者もあった。
- 課題としては、参加者全員で共に作る活動があってもよいのではないかと考えている。また、グループ分けを工夫するなど、多世代がもっと交流できる仕組みを考えていきたい。
- 第4回は、2月23日を予定している。
- 【会長】
- 高台チャレンジクラブの協力やグループ分け等をさらに工夫することで、世代間の交流が積極的に図られるようにしたら良いと思う。
- 【委員】
- 中学生に皆さんにもボランティアとして協力いただけたら良いと考えている。

2 その他

(1) 交通手段に困っている高齢者への対応について(資料7)

【会長】

- 地域的に交通の便が悪いので、買い物などで交通手段に困っている高齢者への対応ができないかを考えてみたい。

【旭川市交通空港課】

- 資料7にある公共交通以外に各地域で交通手段を確保している事例について紹介をしたい。
- 東旭川地区では社会福祉協議会が事業主体となって、車がなくて自身で買い物に行くことが困難な地域住民に対して、買い物施設への送迎を地域ボランティアの協力で実施している。
- 使用している車両については、福祉施設の車両を地区社協が借り上げて運行している。
- 内容としては、第2・第4木曜日に午後の2～3時間程度の時間で実施している。
- 基本的には道路運送法に則って行うことになるが、要件を整えば陸運局への登録を行わないで運行することができる。
- 春光台地区で同じようなことを実施する場合には、①車をどのように準備するか。②誰が運転をするのか。③保険等の負担をどのようにするのか等の課題を解決しなければならない。
- 公共交通の利用者が減少するなど、地域で運行している既存の公共交通の妨げにならないように配慮していかなければならない。

【会長】

- 地域で送迎バスを運行するための実行委員会を立ち上げ、その中で話し合いを深めていければと考えているので、3月のまち協の会議で検討したい。

【副会長】

- 地域の福祉施設等で所有しているバスを利用することができそうな状況がある。
- 運転手の確保やバスの拘束時間など様々な課題はあるが、どのような方々に声掛けをして実行委員会を立ち上げたらよいかなども検討しながら話を進めていければならない。

【会長】

- 少しでも住みよい地域になるために努力していきたい。

(2) その他

【事務局】

- 第3回のまち協の会議については、3月の中旬を考えている。